

日本語学習者用モノリンガル辞書の 語釈と例文が作文に与える影響

— 『ねっこ日日学習辞書』 作成を通して —

尾沼玄也（拓殖大学）

g-onuma@ner.takushoku-u.ac.jp

関かおる（神田外語大学）

seki-k@kanda.kuis.ac.jp

砂川有里子（筑波大学名誉教授）

sunakawa0001@mac.com

【要旨】

本稿は、日本語モノリンガル辞書における副詞語彙の語釈のあり方についての基礎的な調査報告である。「語釈と例文を与える前と与えた後で作文に変化があるか」を検討した結果、N4 から N3 に合格するレベルの学習者であれば、モノリンガル辞書の語釈と例文を活用することができるという暫定的な結論を得た。また、語釈におけるチルダ記号の使用と学習者の理解、および低難度語彙による書き換えと学習者の理解について調べた調査からは、チルダの使用は必ずしも学習者の理解を阻害しないという結果と、低難度語彙による書き換えは意味理解を促進するという結果を得た。

1. はじめに

本稿は、日本語学習用モノリンガル辞書における副詞語彙の語釈のあり方を検討する基礎的な調査についての報告である。筆者らは、母語や学習目的などを問わず利用できる日本語学習用辞書を目指し、初級から中級の語彙を掲載した『ねっこ 日日学習辞書 動詞・形容詞 300』（以下、『ねっこ』）を2020年に出版した。下記に『ねっこ』の編集方針の概要を示す。

- (1) 「汎用的日本語学習辞書データベース」¹、『まるごと 日本のことばと文化』²(国際交流基金, 2013)などを基に独自の語彙リストを作成し、その中から基本的な動

¹ 日本語学習辞書支援グループ 2015 「日本語教育語彙表 Ver 1.0」 <https://jreadability.net/jev/>

² 『入門』から『初中級』までの語彙をリストに加えた。

詞, い形容詞, な形容詞を約 300 語収録した。

(2) 語釈は句や節ではなく, 主語・述語をはっきりさせた文の形で提示した。

(3) 例文は日本の常識や日本文化の知識がなくても見出し語の意味が推測できるように作例した。

モノリンガル辞書とは, 日本語語彙の意味を日本語で記述した辞書である。例えば日英バイリンガル辞書は, 非英語母語話者にとっては使用が容易ではないが, 日本語のみで記述された『ねっこ』は, 使用者の母語に関わらず利用できる。バイリンガル辞書は, 国内では日英辞書³の他, 中国語などの翻訳辞書が何冊か出版されている⁴が, モノリンガル辞書⁵の整備もいっそう進めていく必要がある。『ねっこ』は, 今後もプロジェクトを継続し, 収録語彙を拡充するが, そのための作業と並行して学習者がモノリンガル辞書を使うときの行動を調査することや, その結果を踏まえて辞書の編集方針を改善していくことが重要である。

そこで, 本稿では現在執筆を進めている副詞語彙をとりあげ, 日本語学習者がモノリンガル辞書をどのように利用するか観察し, わかりやすい副詞の語釈のあり方を探索的に検討することを目的とし, 質問紙による調査と半構造化インタビューを行った。

2. 調査概要と協力者

2.1 調査概要

本稿では調査1と調査2を行った⁶。それぞれの課題は以下の通りである。

調査1: 語釈と例文を与える前と与えた後で作文に変化があるか。

調査2: a. 語釈にチルダ(「〜」の記号)を用いることが理解の妨げにならないか。

b. 語釈にチルダを用いる場合, それに関する用例も示した方がよいかどうか。

調査では10名の日本語学習者に協力を依頼した。調査1では, 図1のように状況と副詞を指定して作文を書かせた。その際, まずは何も参照させずに課題に取り組みせ(以下,「参照無し」), その後, 図2のように当該副詞の語釈と例文を与えて同様の作文を書かせた(以下,「参照有り」)。

調査2は, チルダを使った語釈が学習者にとってわかりやすいのかを調べるために実施した。「すこしも〜ない」のように, 語釈にチルダが使われることは少なくないが, 『ねっこ』の編集を通じた学習者への事前の聞き取りから, チルダを多用した語釈は意味の理解を難しくするという可能性が指摘されていた。そこで, この調査では, チルダを使うことの可否とチルダを使っ

³ 『基礎日本語学習辞典(英語版)第二版』, 『ふりがな和英・英和辞典』など。

⁴ 『進学を目指す人のための教科につなげる学習語彙6000語 日中対訳』, 『教科につなげる学習語彙6000語日本語・モンゴル語対訳』など。

⁵ 『基礎日本語辞典』, 『研究社 日本語口語表現辞典』など。

⁶ 調査に先立ち, 筆頭著者が所属する拓殖大学の研究倫理調査を受け, 承認を得ている。

《》は、あなたの今の状況です。指示を読んで、【】のことばを使った文を作って、回答用紙の□に書いてください。文を作るとき、辞書などを使って調べないでください。難しくても文が書けないときは、書かなくてもいいです。

A1-1. 《あなたは、大学の先生と一緒にお茶を飲んでいます。先生は昔、アメリカに留学しました。》

【なぜ】を使って、先生がアメリカに留学した理由を聞いてください。

図1 調査1：課題作文指示文（「参照無し」）

A1-1. 【なぜ】

語義（意味）：理由や原因がわからないとき、「なぜ」を使います。

例文

- ・昨日見た映画はつまらなかった。なぜヒットしてるのか全然わからない。
- ・なぜ事故が起きたのか、原因をしっかりと調べてほしい。

図2 調査1：課題副詞の語義と例文（「参照有り」）

た場合に用例を示すことの可否を検討する。調査2では、状況と副詞を指定し、最初から「参照有り」で作文を書かせた。その際、語釈を複数パターン用意し、作文させると同時に「最もわかりやすい語釈」を選ばせた（図3）。これは、以下の(4)～(6)に示す3点について、情報を収集することが目的である。

- (4) 「すこしも～ない」など語釈にチルダを用いても問題ないか
- (5) 用例を書き込んだ語釈は理解促進に有効か
- (6) 難度の低い見出し語で言い換えを行う語釈（とうとう/ついになど）は有効か

図4に示した「あえて」の3種類の語釈のうち、Aは(4)や(5)の工夫を行っていないもの、Bは(4)を調べるためにチルダを使ったもの、Cは(5)を調べるために用例を書きこんだもの

《》は、あなたの今の状況です。指示を読んで、【】のこばを使った文を作って、回答用紙の□□□□に書いてください。文を作るとき、回答用紙の□□□□の中の語義（こばの説明）を見て考えてください。説明は3種類か2種類あります。すべて同じこばを説明しています。一番わかり易い説明を一つ選んでから、文を作ってください。調査1で自分が作った文に問題がないと思う場合は、また同じ文を書いてもいいです。

図3 調査2：課題作文指示文

B-3. 【あえて（敢えて）】
 わかりやすい語義をA～Cから一つ選んでください。

語義A 「敢えて」は、わざわざという意味です。できるけれども、しないときに「あえて」を使います。する価値がなかったり、しても結果が変わらなかったりするのでしないときに使います。

語義B 「敢えて」は、わざわざという意味です。する価値がなかったり、しても結果が変わらなかったりするのでしないとき「あえて?ない」を使います。

語義C 「敢えて」は、わざわざという意味です。「敢えて言わない」のように「あえて?ない」は、する価値がなかったり、しても結果が変わらなかったりするのでしないときに使います

例文
 ・彼女「理由はあえて言わないけど、私たち、もう別れた方がいいと思う。」彼氏「そうだね。」
 ・入学式のスーツは1度しか着ないし、レンタルもできるので、あえて買う必要はないと思う。

図4 調査2：複数の語積パターン1

である。また、語義A～Cでは相対的に難度の低い「わざわざ」という語を用いた言い換えが行われている。

さらに、調査1, 2 終了後に半構造化インタビューを実施し、語積と例文の活用法、語積のわかりやすさなどについて聞き取った。

2.2 調査協力者

10名の協力者それぞれの母語と日本語レベル(日本語能力試験の合格レベル)を表1に示す。また、協力者には調査開始時に対象の副詞について「ア:知っている使することができる」、「イ:見たことがあるが使ったことがない」、「ウ:見たことがない」の3段階で主観評価を依頼した。この結果も併せて表1に示す。

表1 協力者プロフィールと調査対象語彙に対する親しさ

協力者	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	
母語	タガログ語	ベトナム語	ミャンマー語	ロシア語	インドネシア語	シンハラ語	ベトナム語	マレーシア語	スペイン語	中国語	
合格レベル	N4	N3	N3	N3	N3	N3	N2	N2	N2	N1	
調査1 対象語彙	なぜ	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	
	もちろん	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	
	ぜひ	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	
	かつて	ウ	イ	ウ	ウ	イ	イ	ウ	イ	ア	
	いっせいに	ウ	イ	イ	イ	ウ	ア	イ	イ	イ	
	ぐっすり	ア	ウ	ア	ア	イ	ウ	イ	イ	ア	
	やがて	ウ	ウ	イ	ウ	ウ	ウ	イ	ウ	ウ	
	いまひとつ	ウ	イ	イ	ア	ア	ア	ウ	イ	ア	
	なおさら	イ	イ	イ	ウ	イ	イ	ウ	イ	ウ	
	調査2 対象語彙	なかなか	イ	ア	ア	ア	ア	ア	ウ	ア	ア
		すこしも	ウ	イ	ア	ア	イ	ア	ア	イ	ア
		あえて	ウ	ウ	ウ	イ	ウ	イ	ウ	ウ	イ
		とうとう	ウ	イ	ウ	ウ	ウ	ウ	イ	イ	ア
		ちかぢか	ウ	ウ	ウ	イ	ウ	ウ	ウ	ウ	イ
いっそう		ウ	イ	ウ	ウ	ウ	イ	イ	イ	ア	

3. 調査1の結果と考察

3.1 調査1の結果

結果を表2に示す。被験者ごとに破線で区切った左側が「参照無し」の結果、右が「参照有り」の結果である。「○」は副詞を正しく使用していると判定できる⁷もの、「×」は用法に誤りがあるもの、「-」は作文を書くことができなかったことを示している。「改善率」は、「○」と判定されるものが「参照無し」から「参照有り」でどの程度増加したかを示している。

まず、「参照有り」によって「×」や「-」が「○」に変化した場合に注目する。協力者VIII、Xを除いた8名が、「参照有り」の場合のほうが正しく使用できた。全体的にみると、「参照無し」の場合、正しい使用は58.8%だったが、「参照有り」の場合は85.5%だった。このうち、「参照無し」では誤った副詞の使い方をしており「×」判定だったものが「参照有り」で「○」判定に変化したのは、協力者I・IVでそれぞれ1件ずつ、協力者II・VIで2件ずつあった。また、「参

⁷ 文脈を踏まえて正しく使用できているかを著者3名が合議の上で判定した。尚、副詞の用法にかかわらない箇所の誤りは正誤判定から除外した。

表2 調査1:「参照無し」と「参照有り」の作文の結果

協力者	I		II		III		IV		V		VI		VII		VIII		IX		X	
参照有無	無し	有り	無し	有り	無し	有り	無し	有り	無し	有り	無し	有り	無し	有り	無し	有り	無し	有り	無し	有り
なぜ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
もちろん	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ぜひ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	X	○	○	○	○	○	○
かつて	-	○	○	○	-	X	-	X	-	○	-	○	-	○	○	○	○	○	○	X
いっせいに	-	○	○	○	-	○	X	○	-	-	X	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ぐっすり	○	○	X	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
やがて	-	-	○	○	-	○	-	○	-	-	○	○	-	X	-	X	-	○	○	○
なおさら	-	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-	○	-	○	-	X	-	○	○	○
いまひとつ	X	○	X	○	-	○	X	X	-	○	X	○	-	○	-	X	○	○	○	○
改善率	44%		22%		33%		33%		33%		44%		33%		0%		22%		0%	

照無し」で作文できず「-」判定だったものが、「参照有り」で「○」に変化した場合を以下に示す。協力者番号の後にある () 中の数字は、「参照有り」で「○」に変化した数である。協力者 I (3), 協力者 III (3), 協力者 IV (2), 協力者 V (3), 協力者 VI (2), 協力者 VII (3), 協力者 IX (2)。尚、「参照無し」で正用であったものが「参照有り」で誤用に変化することはなかった。

3.2 調査1の考察

3.2.1 作文課題の分析から

『ねっこ』では、なるべく簡単な語彙を用いて語積を作成することを心掛けている。しかし、止むを得ず比較的抽象度の高い語彙を用いる場合もあり、初級程度の学習者が辞書を活用することができるのかという懸念がある。調査1の結果から、N3 ないしは N4 に合格するレベルの学習者であれば、日本語を日本語で説明したモノリンガル辞書の語積と例文を活用することができると言えそうである。今回の調査では協力者 I (N4 合格レベル) は、事前調査で「見たことがない」と回答した副詞5つについて、「参照無し」では、4つは作文ができず、1つは使い方を誤った。一方、「参照有り」では、作文ができなかった語彙のうち3つは正しく作文ができるようになり、誤った使い方をした語彙1つは、正しい使い方に修正された。

3.2.2 インタビュー調査から

ここでは、作文課題実施後に行ったインタビュー調査から更に考察を試みる。下記にインタビューデータの一部を紹介しながら考察する。Qは調査者の発話、Aは協力者の発話の文字起こしである。

【協力者 I のインタビュー】

Q: 作った文はどれぐらい自信がありますか。

A: 意味の説明がちょっとわかりにくくて、わからなかったから例文を読みました。

Q: 例文を読んだら少しわかりましたか。

A：はい，最後の例文を読んだらわかりました。このことばの使い方は「よくない」という意味だとわかりました。

【協力者Ⅲのインタビュー】

Q：知らない単語の説明を読んで文章を作るということをしてもらったんですが，どうでしたか。

A：本当に役に立ちました。わかりやすいです。

Q：ことばの説明と例文があったと思いますが，どちらの方がより役に立ちましたか。

A：ことばの説明の方がいい感じだと思います。ことばの説明がまだあいまいだと思うとき，例文をチェックします。

協力者Ⅰ，Ⅲの他にⅧ，Ⅸからも同種のコメントがあり，インタビュー結果全体から，学習者は「語釈」と「例文」を相補的に使用し，語義を理解していることが確認された。さらに具体的には，下記4点が指摘できる。

- (7) 「語釈」と「例文」を往還することで理解が促進される
- (8) 「例文」から構文情報を取得する
- (9) 「例文」における状況の明示が語義理解を促進する
- (10) 実体験をなぞる「例文」は理解しやすい

次節以下ではこれらに関するインタビューデータを順次紹介する。

3.2.2.1 (7)「語釈」と「例文」を往還することによる理解促進

学習者は、「語釈」と「例文」をどちらも利用して語義を理解するが，その際に「語釈」と「例文」を行き来して理解を促進させている（協力者Ⅹ）。

【協力者Ⅹのインタビュー】

Q：例文と意味を読むときに，どんな順番に読んでいますか。

A：やはり，意味を確認した上で，例文を読んでいました。

Q：例文を読んだあとに，また意味を読んだりしましたか。

A：そうですね。とまどうところを確認するんです。

Q：「いまひとつ」にはとまどうところがありましたか。

A：うーん，たしかに2番目を読んだときに，意味を確認した気がします。

Q：例文を読んで意味を読んで，考えると自分の理解はよくなりますか。

A：よりよく理解できるようになります。

3.2.2.2 (8) 「例文」から構文情報を取得する

学習者は、副詞語彙を文中のどこに配置すればよいのかを考えながら「例文」を読んでいる（協力者 I, IV）。

【協力者 I のインタビュー】

Q: 例文は役に立ちましたか。

A: はい、多分、私だけだと思いますが、勉強するとき、私は意味だけでは…。意味はわかりますが、どうやって使うか、どこに入れるかは例文を見ないと勉強するのはできないので、例文を見て、文を作る方が勉強しやすいです。

Q: いつも意味を読んで、それから例文を読みますか。

A: 意味を読んで、例文を読みます。

Q: どうして意味を読んでから例文を読みますか。

A: 意味がわからないと例文を見てもわからないからです。

Q: この「いまひとつ」は語義だけでも意味はわかりましたか。例文がなくてもわかりましたか。

A: 意味は例文がなくてもわかりますが、文を作ったときには、どこに入れるか、後ろは名詞だったらどうなるか、動詞だったらどうなるかはわからないので例文を見るといいと思います。

3.2.2.3 (9) 「例文」における状況の明示が語義理解を促進する

学習者は、「例文」から語彙の使用場面を理解することにより、語義をより深く理解する（協力者 I, IX）。

【協力者 IX のインタビュー】

Q: ことばの意味と例文を見るときに、どういう順番で見えていますか。

A: 例文から読んで、そして意味です。

Q: どうして例文を先に読みますか。どうしてそれが便利だと思いますか。

A: そうですね。思うのは、意味の説明を読むと、つまらない…ではないけれど、ことばは状況にいれるとわかる気がします。

Q: じゃ例文だけだったら、どうですか。

A: 例文だけじゃ足りないと思います。

3.2.2.4 (10) 実体験をなぞる「例文」は、理解しやすい

自分が実際に経験したことがあるような内容の「例文」は、よりよく理解できる（協力者 VI）。

【協力者VIのインタビュー】

Q：例文はどれが一番役に立ちましたか。

A：3番です。

Q：どうして3番が役に立ったと思いますか。

A：この例文は経験がありますので。

4. 調査2の結果と考察

4.1 調査2の結果

調査2で扱った副詞のうち、「なかなか」「すこしも」「あえて」は、①チルダを使った方がいいかどうか、②チルダを使った場合、それに関する例文まで示した方がいいかどうかの2点を調べることを目的として、以下3種類の語釈を示した(図5を参照)。

(語義A) チルダを使っていない語釈

(語義B) チルダを使った語釈

(語義C) チルダを使い、かつチルダにどのような語が入るか例示した語釈

語義A	長い時間 <small>なが じかん</small> が経っても、期待 <small>きたい</small> したり予想 <small>よそう</small> したりしたようにならないとき「なかなか」を使いま す。
語義B	長い時間 <small>なが じかん</small> が経っても、期待 <small>きたい</small> したり予想 <small>よそう</small> したりしたようにならないとき「なかなか～ない」を 使 <small>つか</small> います。
語義C	「なかなか終わらない」や「なかなかできない」などのように、「なかなか～ない」は、長 い時間 <small>なが じかん</small> が経っても、期待 <small>きたい</small> したり予想 <small>よそう</small> したりしたようにならないときに使 <small>つか</small> います。

図5 「なかなか」の語釈3パターン

「とうとう」「ちかぢか」「いっそう」は、より難度が低いと思われる言い換え語を使う語釈がわかりやすいどうかを調べることを目的とし、以下の2種類の語釈を示した(図6を参照)。

(語義A) 言い換えを使わずに解説する語釈

(語義B) 難度の低い語で言い換える語釈

調査2の回答結果を表3に示す。回答者毎に破線で区切った左側は、語釈と例文を参照して書いた作文で当該副詞を正しく使用できていたかを示す。尚、記号の使い方は調査1に倣う。

破線の右側は「わかりやすい」と考える語積の記号を示している。

ご ぎ	ものごと	ていど	つよ	いっそう	つか
語義A	物事の程度がそれまでより強くなる時に「一層」を使います。				
ご ぎ	いっそう	い み	ものごと	ていど	つよ
語義B	「一層」は、もっと、という意味です。物事の程度がそれまでよりもっと強くなる時に使います。				

図6 「いっそう」の語積2パターン

表3 調査2：回答結果

協力者	I		II		III		IV		V		VI		VII		VIII		IX		X	
	正誤	語積	正誤	語積	正誤	語積	正誤	語積	正誤	語積	正誤	語積	正誤	語積	正誤	語積	正誤	語積	正誤	語積
なかなか	X	C	○	C	○	C	X	C	○	A	X	C	X	C	X	C	○	B	○	B
すこしも	○	C	○	B	○	C	○	B	-	B	○	C	○	C	○	B	○	B	○	B
あえて	○	B	X	A	X	A	X	B	-	A	X	B	X	C	○	B	X	C	○	C
とうとう	○	B	○	A	○	B	○	A	○	B	X	A	○	B	○	B	○	B	○	B
ちかぢか	○	B	○	B	○	B	○	A	○	B	-	-	○	B	○	B	○	B	○	B
いっそう	○	B	○	B	○	B	○	A	○	B	X	B	○	B	○	B	○	A	○	B

調査2では、語積と例文を参照して作文した際の全体の正用率は73.3%だった。事前調査で「ウ：見たことがない」と回答した語彙を正しく使うことができたかどうかを個別に見てみる。協力者番号の後ろの（）の中の左側が未知語彙数、右側が未知語彙の正用数である。協力者I（5：5）、II（2：1）、III（4：3）、IV（2：2）、V（4：3）、VI（2：0）、VII（3：1）、VIII（2：2）、IX（0：-）X（1：1）。協力者VI以外は、語積と例文を参照することにより、未知の語彙を概ね正しく使うことができた。

「一番わかりやすい」語積の選択については、チルダの使用に関しては、回答が次のようにばらついている。括弧内は人数を示す。

なかなか：C（7）>B（2）>A（1）

すこしも：B（6）>C（4）>A（0）

あえて：B（4）>C（3）=A（3）

言い換え語を使った方がいいかどうかに関しては、下記のような結果になった。

とうとう：B（7）>A（3）

ちかぢか⁸ : B (8) > A (1)

いっそう : B (8) > A (2)

4.2 調査2の考察

調査1の結果と同様に、N4からN3レベルであれば、日本語で書かれた語釈と例文を参照して未知の語彙を使うことができそうである。

「わかりやすい」語釈のあり方について、下記に視点別に考察する。

4.2.1 チルダを用いた語釈

協力者I, VIIIは、ともに未知語「あえて」でわかりやすい語釈としてチルダを使ったBを選択し、正しく作文している。協力者たちは、語釈に出現する「否定」のような抽象語彙が理解できなくても、その他の情報を活用して意味を理解していることが観察された。また、前節の図3に示した「わかりやすい」と考える語釈について、「なかなか」「すこしも」「あえて」の結果をみると、チルダを用いない語義Aは最下位であったり、選ばれなかったりするという結果になった。このことから、協力者たちはチルダが語釈にあるほうがわかりやすいと感じていると言える。チルダの多用には注意しなければならないが、語釈執筆の際に全く使用できないわけではなさそうである。チルダの利用によって語釈の理解が進む場合があるようだが、引き続き検討を要するだろう。

4.2.2 用例を書き込んだ語釈の有効性

「なかなか」はチルダに例示がある語義Cが一番わかりやすかった。他方、「すこしも」と「あえて」はチルダがあるだけの語義Bが一番わかりやすいが、例示がある語義Cとの差は「すこしも」が2人、「あえて」は1人だけで、ほぼ拮抗している。表1からは、それぞれの副詞に関する既有知識は「なかなか」>「すこしも」>「あえて」の順に減っている。既有知識のある人が多い「なかなか」のほうがチルダの例示があったほうがいいという結果になった。「なかなか」

(図5)「すこしも」、(図4)「あえて」の語釈Cがこのパターンの語釈である。協力者Iが未知語である「すこしも」についてこのパターンを選択し、正しく作文しているが、他の協力者は、既知語でしかこのパターンを選んでいない。これは、知らない語にこそ例示があった方がいいのではないかという予想とは反対の結果である。この理由については今回の調査では不明である。尚、協力者、IVはインタビューで次のように述べている。

【協力者IXのインタビュー】

Q: どうしてCがいいと思ったか説明できますか。

A: Cは「なかなか～ない」という動詞が形だけではないのでわかりやすいです。「おわ

⁸ 協力者VIは無回答。

らない」「できない」など書いてあります。

Q:たとえば…, という例があるからですね。「すこしも」は、知っていることばでした。

Bがいいかなと言っていますね。

A: Cは他の動詞も使えると思います。二つの動詞しか使えないのかなと思うのでBが
いいかなと思いました。

協力者IXにとって「なかなか」も「すこしも」も既知語であるが、語釈に示されている例以外の言葉と一緒に使われることが多いということを知っていると、示された語釈に納得できない場合があるようである。

4. 2. 3 難度の低い見出し語で言い換えを行う語釈の有効性

これは、「とうとう」(図5)、「いっそう」(図6)の語釈Bのように、見出し語彙を、より早期に学習するであろう語彙に言い換える語釈パターンである。他に、「ちかぢか」の語釈Bもこのパターンである。協力者VIは、これらすべてにおいて、言い換えがないパターンの語釈を選択しているが、それ以外の協力者は、言い換えを用いたパターンを選ぶことが多かった。インタビューでは、協力者Vが、「いっそう」のわかりやすい語釈にBを選んだ理由を次のように述べているが、多くの協力者にとって未知語を既知語で言い換えるパターンの語釈はわかりやすいようであった。

【協力者Vのインタビュー】

Q:どちらがわかりやすいですか。

A: Bです。

Q:理由がありますか。

A: 理由は「もっと」ということばがありますから。

5. まとめと今後の課題

本稿では、調査1として、語釈と例文が作文に与える影響について調べた。協力者の作文から、N4～N3合格レベルであれば、日本語で書かれたモノリンガル辞書を活用して未知語の意味や用法をある程度理解することができることが観察された。また、インタビューからは、未知語の理解には語釈と例文を相互補完的に活用していることや、例文からは意識的に構文情報を読み取っていることもわかった。また、学習者にとって身近な(経験したことがある)例文がよりわかりやすいこともわかった。このことから、例文を作成する際には、構文情報の提供を意識したものと、意味理解の促進のために接触可能性の高い状況を意識したものの双方を用いる必要があることが指摘できる。

わかりやすい副詞の語釈のあり方について調べた調査2からは、抽象度の高い説明の場合、チルダを使用したほうがわかりやすい語釈になる可能性があることと、見出し語をより身近な

語彙で言い換えて説明する方法が有効である可能性が指摘された。

本調査は、日本語モノリンガル辞書作成ための基礎的な資料収集を目的に探索的な方法で実施した。得られた考察については、今後、量的な調査を追加実施するなどし、更に検証を重ねる必要がある。しかし、今回の調査から、日本語学習者が語彙と例文をうまく組み合わせて活用している様子が観察できた。

謝辞

本稿の執筆に際し、株式会社三修社の安田葵氏、浅野美華氏、田中由紀氏に多大なご協力を賜りました。ここに記して感謝申し上げます。

参考文献

- 国際交流基金(編) (2004) 『基礎日本語学習辞典(英語版) 第二版』 凡人社
- 佐藤友子・松岡洋子・奥村圭子(編) (2013) 『研究社 日本語口語表現辞典』 山根智恵監修, 研究社
- 清水幹夫 (2019) 『教科につながる学習語彙 6000 語日本語・モンゴル語対訳』 清水書店
- 関かおる・尾沼玄也 (2020) 『ねっこ 日日学習辞書 動詞・形容詞 300』 砂川有里子監修, 三修社
- 樋口万喜子・古屋恵子・頼田敦子(編) (2011) 『進学を目指す人のための教科につながる学習語彙 6000 語 日中対訳』 ココ出版
- 森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』 角川書店
- 吉田正俊・中村義勝(編) (2012) 『ふりがな和英・英和辞典 - Kodansha's Furigana Japanese Dictionary』 講談社インターナショナル

参考文献ウェブサイト

- 国際交流基金 まるごと <<https://www.marugoto.org/>> (2021年12月16日)
- 日本語教育語彙表 Ver1.0<<http://jhlee.sakura.ne.jp/JEV/>> (2021年12月16日)